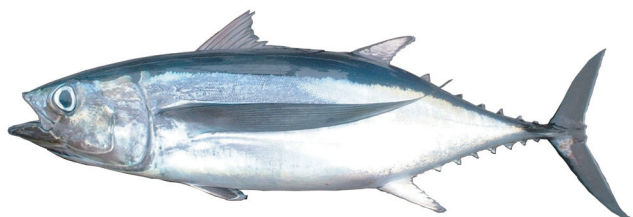


ビンナガ 南太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同体事務局 (SPC)

最近一年間の動き

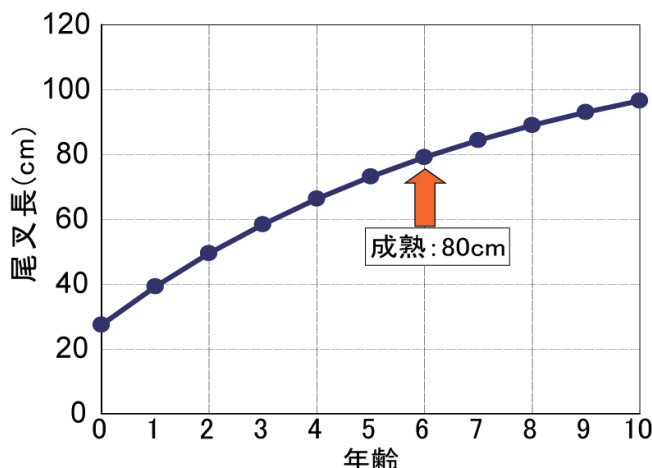
2006 年の漁獲量は 6.8 万トンとなり、これまでで最も多かった。8 月の WCPFC 科学委員会第 3 回会合では資源評価が行われず、資源の現状は健全であるという認識に変化は無い。

生物学的特性

- 寿命：12 歳以上
- 成熟開始年齢：6 歳
- 産卵期・産卵場：10～2 月(南半球の春・夏季)、中・西部熱帯～亜熱帯海域
- 索餌場：南緯 30～45 度
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

缶詰原料など



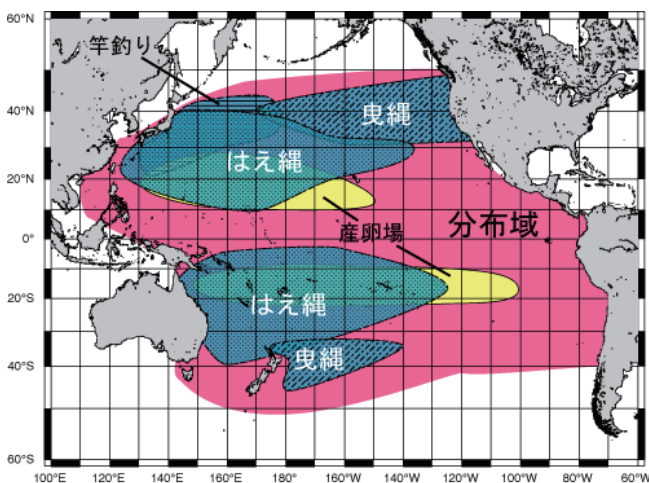
南太平洋のビンナガの年齢と体長の関係

漁業の特徴

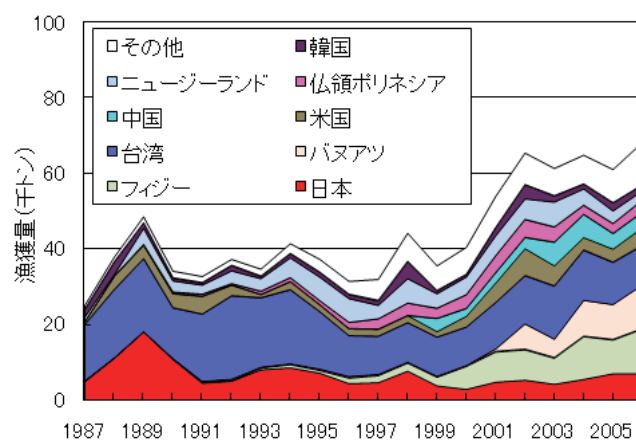
主な漁業は、遠洋漁業国(日・中・台・韓)や島しょ国(フィジー・仏領ポリネシア・米領サモア・サモア等)のはえ縄、ニュージーランド沖・亜熱帯収束域(南緯 40 度付近)のひき縄(ニュージーランド・米国)で、竿釣りの漁獲は僅かである。近年は遠洋漁業国のはえ縄の漁獲が減少し、島嶼国のはえ縄の漁獲が増加傾向にある。はえ縄以外では、ニュージーランドのひき縄の漁獲が最も多い。遠洋漁業国の大規模流し網漁業は、1983 年頃に始まり 1991 年に消滅した。

漁業資源の動向

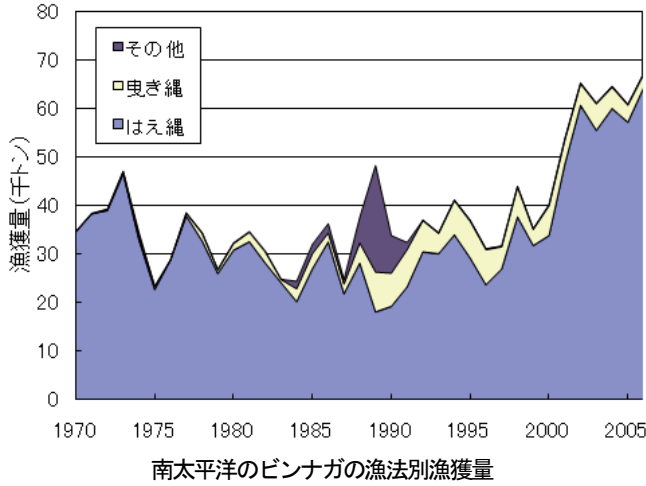
1950 年代初めから漁獲が始まり、1960 年代までの漁業国は日本、韓国、台湾であった。年間の総漁獲量は 1960～2004 年で 2.2～6.3 万トン、2000～2006 年は 4.0～6.8 万トンで、過去最高水準である。漁獲量では 2006 年にフィジーやバヌアツが台湾の漁獲量を上回り、1 万トンを超えている。



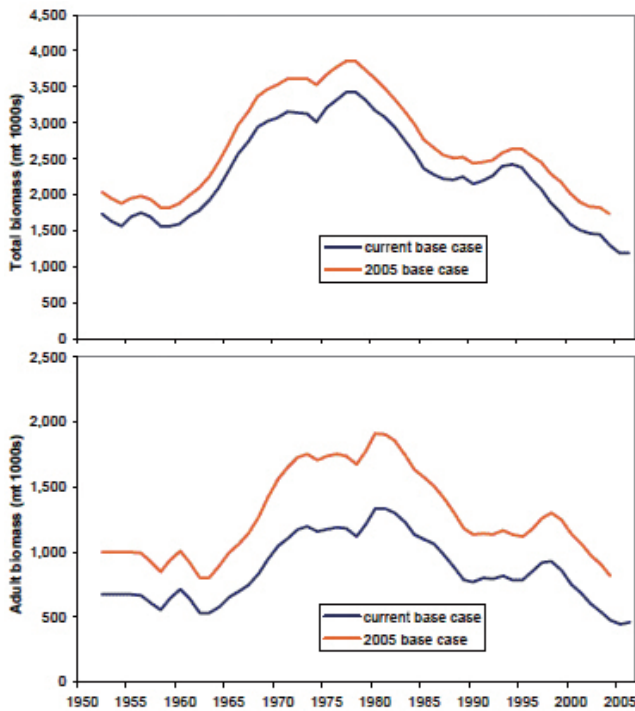
太平洋のビンナガの分布とおもな漁場



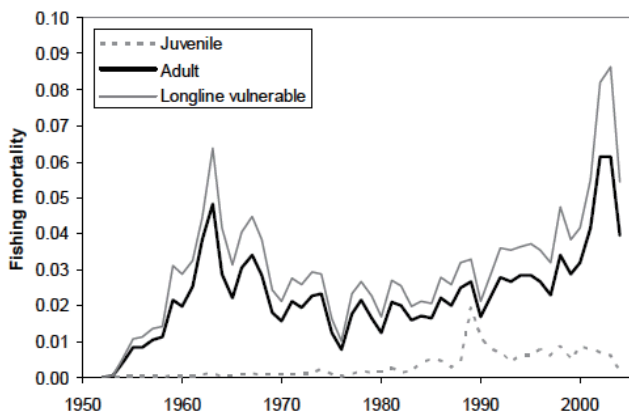
南太平洋のビンナガ国別漁獲量



南太平洋のビンナガの漁法別漁獲量



総資源量 (上) と産卵資源量 (下) の推定値
赤線は 2005 年、青線は 2006 年推定値
(Langley and Hampton 2006 改変)



未成魚 (点線) ,成魚 (黒) およびはえ縄 (灰色) の漁獲死亡率
(Langley and Hampton 2005)

資源状態

MULTIFAN-CL による資源評価を行っており、2006 年の WCPFC 科学委員会で新たな計算結果が報告された。総資源量は 141 万トンと推定され、前年の結果と比較して全般に低く見積もられた。しかしながら、推定された F は 2003 年で 0.05、 B/B_{MSY} は 1.34 であり、資源水準は依然として高いレベルを維持していると考えられる。漁業が資源に与える影響については、成魚を漁獲対象とするはえ縄に限れば 40%に達するが、全体としては漁業が存在しなかった場合と比較して 10%の減少に止まると推定された。現在実施されている資源評価には考慮すべき不確実性が残されており、解析に使用するデータの量および質の改善が望まれる。

管理方策

現段階では本種の総資源量に対する漁獲の影響は少なく、漁獲量は MSY 水準より低いと推定されている。しかし、島嶼国のはえ縄 CPUE の低下のため、2005 年 12 月に行われた WCPFC 第 2 回年次会合において、島嶼国を除く各国は南緯 20 度以南の水域におけるビンナガを主対象とする漁船数を 2005 年または過去 5 年の平均以下に抑制することが決議された。

資源評価まとめ

- 現在の漁獲が資源量の変化に及ぼす影響は 10%程度
- 資源量水準は十分に高いと考えられる

資源管理方策まとめ

- 南緯 20 度以南におけるビンナガを主対象とする漁船数を 2005 年または過去 5 年の平均以下に抑制 (島嶼国を除く)
- 資源評価の推定精度の向上

ビンナガ(南太平洋)の資源の現況 (要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	6.1~6.8 万トン 平均: 6.4 万トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	4.3~7.1 千トン 平均: 5.9 千トン